

数学

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
数 学	数学基礎	2	3年次・I 1	選択
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
自作教材（新居浜南高校数学科）		数学就職問題集 （愛媛県高等学校教育研究会数学部会）		・商業系列・スポーツ科学系列の選択科目。 ・数学分野の過去の就職問題を解き、また、数学Ⅰの総復習を行うため、就職希望者に適している。

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
数学Ⅰの既習内容を深化・発展させ、基礎的・基本的な原理・法則の系統的理解と的確な応用力を養わせるとともに、社会生活において数学が果たしている役割や有用性について理解させ、数学に対する興味・関心を高めて活用しようとする態度を育てる。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
割合、数と式、図形と計量、2時間数及びデータの分析について理解を深め、社会の事象を数値化したり、数学的に解釈したり、表現・処理する技能を身に付け活用できるようにする。	数や式を目的に応じて変形する力、図形の構成要素間の関係から図形の性質について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフに関連付けて考察する力、社会の事象から設定した問題について、事象を的確に表現し考察し解決する力、データを考察し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習計画と観点別評価項目

学年	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
	1	第1章 数と式	1 割合・数の計算 2 展開・因数分解 3 絶対値・根号の計算 4 不等式と2次方程式	4	・基本・既習内容（%と歩合、買い物計算、指数法則、式の展開、因数分解、絶対値、根号、方程式、不等式）について復習し、理解を深めるとともに、それらを活用して就職試験頻出問題を解くことができるようにする。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
	2	第2章 2次関数	1 1次関数 2 1次関数の最大・最小 3 2次関数の基本 4 2次関数とグラフ 5 2次関数の最大・最小 6 2次関数の決定 7 x軸との共有点 8 2次不等式 9 2次不等式の応用 10 2次関数のグラフとx軸との共有点	5 6 7	・既習内容（2次関数とそのグラフ、2次不等式）について復習し、理解を深めるとともに、それらを活用・応用して就職試験頻出問題を解くことができるようにする。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
年間計画	2	第3章 図形と計量	1 三角比のの基本 2 三角比の利用 3 三角比の相互関係 4 三角比の拡張 5 正弦定理 6 余弦定理	9	・既習内容（三角比、正弦定理、余弦定理）について復習し、理解を深めるとともに、それらを活用・応用して就職試験頻出問題を解くことができるようにする。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
	2	第4章 データの分析	1 データの代表値 2 四分位数、四分位範囲 3 分散と標準偏差 4 2つの変量の表し方 5 共分散と相関係数	10 11	・既習内容（データの分析）について復習し、理解を深めるとともに、それらを活用・応用して就職試験頻出問題を解くことができるようにする。	1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3
	総合問題	1 総合問題		12	・数学Ⅰの学習内容が社会生活で果たしている役割や有用性を理解し、活用できるようにさせる。	1 2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

	3 学 期		2 課題学習	1	・数学Ⅰの学習内容が社会生活で果たしている役割や有用性を理解し、課題解決につなげさせる。	1 2 3
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度
	規 準	○学習内容を理解できているか。 ○解法を理解できているか。 ○問題を解くことができているか。また、答えを正しく求めることができているか。		○学習内容を理解しようとしているか。 ○学習内容を適切に活用できているか。 ○解法を適切に式で示すことができているか。 ○学習内容を関連付けて考えることができているか。		○学習内容に興味、関心をもち、内容を考察し、自ら調べようとしているか。 ○積極的に問題に取り組んでいるか。 ○日常の事象や社会の事象などに学習内容を関連付け、活用しようとしているか。
	手 段	・例題、練習、発展問題、課題 ・小テスト、定期考査などの試験		・例、練習、発展問題、課題 ・小テスト、定期考査などの試験		・例、練習、発展問題、課題 ・授業中の取組状況 ・レポート、課題の取組状況
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と、学期末の総括を行い評価する。			
	学習上の留意点	・予習復習を行い、毎時間積極的に学習に取り組むこと。 ・提出物は、内容を確認しできていることを確認して期日厳守で提出すること。 ・定期考査では、しっかりと復習をして臨むこと。				